



【いつも主にあって喜びなさい！】

今日の聖書本文:ピリピの手紙4章4-7節/暗唱聖句:ハバクク書3章17-18節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！お盆休みはいかがお過ごしでしたか。

主にあって喜びはクリスチャンの表示であり、顔です。喜びはクリスチャンが味わえる特権です。喜びがない信仰生活、喜びのない教会生活、喜びのない家庭生活は普通ではなく、健康でない証拠です。なぜなら、主イエスキリストを信じ、神の御言葉に従う者には感謝と喜びが溢れるようになるからです。イエス様はこう言われました。「わたしの喜びがあなたがたのうち
にあり、あなたがたが喜びで満ちあふれるようになるために、わたしはこれらのことをあなたがたに話しました。(ヨハネの福音書15章11節)」今日は喜びの手紙と呼ばれている神が使徒パウロによって書かせたピリピ人への手紙(喜び・喜ぶと言う言葉が13回以上書かれている書)ととおして喜びについて一緒に学んでいきたいと思えます。今日の御言葉を通して、今週一週間も我々がますます喜べる人、喜ぶ教会となっていけますように切に祈ります。

< 1.環境を超えた神の関係(恵み)による喜び >

イエス様に似た品性を持っていた代表的な人物の中の一人が使徒パウロです。彼は喜びに満ちた生き方でした。パウロの持っていた喜びは単に感情的に感じる程度ではありませんでした。このピリピ人への手紙は、パウロがピリピ(Philippi;Philippi)-今日は、ギリシャに属されているところですが、パウロの時代の時は、マケドニアに属されていた小ローマのような都市でしたが、パウロの2回目の伝道旅行中A.D.50年ごろ、パウロによって建てられたピリピの愛する教会(使徒16章)教会の人々に贈られた手紙の御言葉であります。なので、このピリピ人への手紙が書かれた場所はA.D.63年ごろ、2年間のローマの冷たい牢獄(ろうごく)中に、エペソ人への手紙、コロサイ人への手紙、ピレモンへの手紙とともに、投獄中の末期最後に書かれた御言葉でした。お年寄りの方が、それとも2年間のローマ暗くて冷たい監獄生活はとても想像するだけでも大変なのに、決して楽でも、楽しいわけでもないのにも関わらず、なぜかローマの牢屋で最後に書かれたこのピリピ人への手紙でパウロはすべて喜びに満ちていました。このピリピ人への手紙ではひたすら、喜びという単語が13回以上続けて書かれているため、喜びの書とも呼ばれているのです。冷たい牢屋に閉じ込められ、これからローマで死なれるかも知れない恐れと不安の中であるのにも関わらず、自分も喜んでいるだけではなく、外にいる愛するピリピの教会の信徒たちにさえも“喜びなさい！もう一度言います。喜びなさい”と強調しながら伝えていきます。

この世の快樂のため喜んでる人を我々は尊敬しません。それを喜びよりは楽しみと言います。楽しみと喜びは違います。パウロはローマの牢獄という環境的に一番わるい恐ろしいところだったのではありませんか。それにもかかわらず彼は喜んでいます。牢に入っているのにもかかわらず、イエスキリストの御名が、救いの福音が今までさらに広がっていることだけで喜びました。パウロはイエスキリストのために喜び、イエスキリストにあって喜びました！

聖書で見ると、神を信じて、神様との関係を保って、神様とともに人生を歩んでいた人々は、今自分が置かれていた環境や状況を超えて感謝し、喜んでいたことが分かります！

旧約のハバククという預言者も必要な物がなく、頑張っても物事がうまく行かない苦しい環境においても神様の為、喜んでいたことが分かります。ハバクク書3章17-18節です。「いちじくの木は花を咲かせず、ぶどうの木には実りがなく、オリブの木も実がなく、畑は食物を出さない。羊は囲いから絶え、牛は牛舎(ぎゅうしゃ)にいなくなる。しかし、私は主にあって喜び踊り、わが救いの神にあって喜ぼう(楽しもう)。」

彼は救いの神様にあって喜びました！幸せになりたいなら、幸せな人々をよく観察し、彼らから幸福の秘訣を学ばなければなりません。喜びに満ちた生き方をしたいなら、喜びに満ちている人を観察し、その喜びの秘訣を学ばなければなりません。

ここで、聖書の喜び(JOY,Rejoice)原語はギリシャ語で「カラ(Chara)」であります。この「カラ」という言葉は「カリス(恵み)」から派生された単語であります。この恵みを意味する「カリス」という言葉から喜びを意味する「カラ」という言葉、力と能力、賜物を意味する「カリスマ(Charisma)」という言葉も、そして、「感謝」を意味する「ユカリストティア(Eucharistia)」という言葉もこの「カリス(恵み)」という言葉から関連があるという事はとても深い意味が含まれていると言えるでしょう。まとめると、我々は神の恵みにより、喜ぶ事も、感謝する事も、力も出来る意味であり、神の恵みを通して我らはどんな場合にも、どんな時にも感謝し、喜べる力をも頂ける事を教えて下さっています。

使徒パウロが喜びの人になったのは自然に出来たのも、突然出来たわけでもありません。

パウロも喜びの秘訣を学びました。使徒パウロの喜びは神様との関係、イエスキリストと関係にありました！使徒パウロの喜びは神との霊的訓練と習慣による御霊の実でした！

ガラテヤ人への手紙5章22節から23節には御霊の九つの実(つまり、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制)が紹介されている中2つ目の聖霊の神からの実が喜びであると書かれています。私は我々のクリスチャンプレイズチャーチの中でともに信仰の生活をしているすべての神の家族一人一人に豊かな御霊の実が結ばれようになって行くことがイエスキリストの似姿に変えられていく神の子ども、キリストの弟子たちとなって行くことであると信じております。

< 2. 我らの喜びの障害物 >

しかし、我らに喜びに満ちた人生を送ろうとしても、我々の何が喜びの妨げになり、障害物となって、なかなか喜べない自分の姿をよく知っています。その妨げとなり、障害物となっている物を我々が知る必要があります。自分が不幸だと思っていることはだいたい喜びの障害物のせいです。愛する信仰の家族のみなさん！我々を喜ばせない障害物は何でしょうか。

①「環境」が喜びを奪う障害物になる時があります。

人間は環境に左右されます。良い環境に会うと喜び、悪い環境に会うと落ち込みやすくダウンしてしやすくなります。使徒パウロは自分の環境をこのように記録しています。「私がキリストのゆえに投獄されたいことが、親衛隊(しんえいたい)の全員と、ほかのすべての人たちに明らかになり、」(ピリピ人への手紙1章13節) いまパウロの環境は牢獄です。くさり縛られています。パウロがこのように自分の環境を明かす理由は、人間は環境の影響を受けざるを得ないことを示しています。

例えば、バプテスマヨハネのようなすばらしい神の人でさえも牢屋に閉じ込められている間、神に対して信仰が揺らぎ、疑う心が生じてしまいました。それで自分の弟子たちをイエス様に送って“来られる方(メシヤ)が本当にあなた様でしょうか。”と問いました。それほど環境は我々の感情に影響を与えます。しかし、今パウロは四方八方囲まれている環境の中でも乗り越え喜んでいました。そして、さらに、われわれにも環境の奴隷にならないようにも進めています。これが可能だった一つの理由はパウロは牢屋という環境の中にいるという思うより、自分は今キリストイエスにあって生きていることを忘れてなかったからでした。彼は環境の焦点を環境や牢屋ではなく、イエス様においていたから可能であったことが分かります。

どうしようも出来ない環境、失敗や絶望、失望的な環境として見ていたのではなく、キリストイエスあって見れば、自分はどうしようも出来なくても、今神は全てを治めておられ、今の環境が許されたのにも必ず、神の計画がある！今の状況を通してついには、キリストが全て有益となるようにさせて下さると信じているため、神を喜び、感謝を保つことが出来たのではないのでしょうか。

②「人」が喜びを奪う障害物になる場合もあります。

人は喜びを与えると同時に心の悩み痛みをも与える存在です。事実我々を苦しめられるのは環境より、一番近くにいる人の場合が多くあります。人の幸福は関係に関わっているため、一番近くにいる人々と関係が崩れる時、人生が苦しくなります。遠くにいる人々より近く家族や、教会の人々、隣人などが我々の喜びを奪ってしまう時もあります。使徒パウロはピリピの教会の人々の間、争いがあることを知っていました。特に女信徒の間に不和(ふわ)があることを知っていました。そういうわけでこのように記録しました。「ユウオデヤに勧め、シンティケに勧めます。あなたがたは、主にあって同じ思いになってください(一致してください。)」(ピリピ人への手紙4:2)

パウロにも絶えずパウロを殺さないと食べも、飲みもしないと言っている40人に会った時があります。彼には苦しませようとする敵のような人たちが多くありました。自分を裏切る、落胆させる、攻撃する多くの人とも会いました。しかし、パウロはそのすべての人の中にもかかわらず喜べる秘訣を学びました。むしろパウロを苦しませる人々のおかげでキリストの福音がさらに広がり、前進されていることを喜びました。

ピリピ人への手紙1章17-18節を読んで見ましょう。「ほかの人たちは党派心(とうはしん)からキリストを宣べ伝えており、純粋な動機からではありません。鎖につながれている私をさらに苦しめるつもりなのです。18しかし、それが何だというのでしょうか。見せかけであれ、真実であれ、あらゆる仕方でもキリストが宣べ伝えられているのですから、私はそのことを喜んでいきます。そうです。これからも喜ぶでしょう。」

パウロは自分が人によってどんな苦しめられても、キリストと出会い尊いの魂たちが一人でも神の救いの福音を聞き、救われるのであれば、自分が払うどんな犠牲でも喜んでいたわけです。

パウロにとっては、キリストイエスにあるすべての人間関係は、競争相手ではなく、「兄弟姉妹、神の家族」として見ていたことが分かります！夫や妻が、子どもたちがうまく出来たからねたみ、やきもちする人はいません。かえって自分のことのように喜び、ともに喜べるのではありませんか。

神からのこの喜びの実は神が私を喜ばれているように、私も隣人を喜ぶことができる力があります。隣人が喜ぶ時に、共に喜ぶことができる力でもあります。ねたむのではなく、自分のことのように共に喜べます。みんな愛し合う神の家族の関係、存在だからではありませんか。そして、さらに「他人も、神の愛の対象であり、神の救いが必要な対象」として見る必要があります。そうした時こそ、この喜びの実がさらに大きく豊かに結ばれ広がって行きます。イエスキリストがなされたように、先ほどのパウロのように自分の仕え、犠牲のため、他の人たちさえも、キリストに出会い、救われ、祝福される事も、これからもっと喜び事が出来るようになります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！我々もいつまで人によって神の喜びを容易く奪われる者ではなく、その喜びの小さな種を持って分け与え、仕え、助け、支え、祈り合い、愛し合うことにより、他の人々がさらに神の愛と恵み、神の喜びによって、さらに喜びが溢れさせられるみなさんとなりますように切に祈り申し上げます。

③「思い煩い」が喜びを奪う障害物です。

現代人の一番の敵があればそれは様々な心配や思いわずらいです。みなさん。いちばんたくさん売れている薬が神経安定剤であることをご存知ですか。世界的に大量の神経安定剤が売られています。それほど、今日の人々は思い煩っているのです。

す。過去のどの時代よりも楽で豊かになっているのにもかかわらず、どの時代よりも心配、不安、恐れを多くする時代になっているようです。我々の思いに心配が満ちています。思い煩いが習慣になってしまった人々が多くあります。思い煩いは“**心が分かれる**”という意味です。そして“**首をしめる**”という意味もあります。思い煩いは我々の心を分け、苦しませる、喜べないように、感謝出来ないようにさせるものです。

パウロはピリピの信徒たちに喜びを奪ってしまう思い煩いが多くあって喜べないことを知っていたためこのように勧めています。「**何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。(ピリピ人への手紙4章6節)**」イエス様も思いわずらいがどれほど深刻な問題だったのかよくご存知でした。そういうわけでマタイの福音書6章で思い煩わないで生きる秘訣と重要性を教えてくださいました。思い煩うことでなされるものは何一つありません。「**あなたがたのうちだれが、心配したからといって、少しでも自分のいのちを延ばすことができるでしょうか。(マタイ6:27)**」そして心配は不信仰の表現でもありません(マタイ6:30-31)。心配しない一番大切な秘訣は「**思い煩わないと心に決め、決心すること**」です。この思い煩いの障害物を取り除き、そこに感謝をさらに加える時に我々は喜べます。

人生はすべてを心配するもの、煩うもので見るか、感謝と喜びのもので見るかどちらの面を見るかによって、生き方が変わります！ 以前みなさんに紹介したことがある話ですが、あるお母さんに商売をする二人の息子がいました。長男は帽子を売って、次男は傘を売ってましたので、このお母さんは365日、毎日心配と煩いが絶えません。晴れの時は、傘が売れない次男の煩いで、雨の日は帽子の売り上げのない長男の心配でした。しかし、そのお母さんが逆に考えて見たら、どうだったのでしょうか。晴れの日には、長男の帽子が売れるから感謝で、雨の日には次男の傘が売れるから感謝で、そうなると、一年中感謝が絶え続いたはずではないでしょうか。みなさんは、今どちらを見ていらっしゃいますか。

ピリピ人への手紙4章6節では「**何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、神に知っていただきなさい**」とされています。感謝の思いと言葉、表現を増やせば、その感謝が煩いに打ち勝ち、さらなる喜びを与えてくれます！

④ 「物質」が喜びを奪う障害物になる場合もあります。

貧しさを味わったことがない人は分かりません。経済的に苦しんだり、破産してしまった人々にやってくる経済的圧迫は心の喜びを外に追い出す役割をします。もちろん、貧しさや貧困は決して罪ではありません。しかし、貧困が与える不便さのため人生の喜びや感謝を失う時があります。そのストレスのため、心の余裕を失い、喜びを失う時があります。ピリピの信徒たちの中でも金銭的に苦しんでいる人たちがいたようです。使徒パウロは彼らをこのように慰めます。

「また、私の神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。(ピリピ4:19)」

実際使徒パウロも経済的な苦しみを経験した人でした。しかし、彼は貧しさを乗り越え、喜べる秘訣を悟り得ています。我々の喜びを奪うことは貧しさだけではありません。富も我々の喜びを奪うことはできません。金持ちになれば、みんなが幸せになれると思いますか。賭博にはまってしまった人々の姿を見て下さい。彼らは緊張していて、深刻な顔をしています。彼らを見ている人々さえも深刻になります。正当な方法でないやり方で得たお金は喜びをともしません。宝くじにあたって一躍金持ちになった人が幸せになった例はあまりありません。そしたら金持ちになることは悪いことでしょうか。そうではありません。正当な方法で熱心に努力して金持ちになり、価値あることにお金を使うなら、それは尊いことです。つまり、それには豊かな時さえも物質に執着しないで、まことの喜びに留まるべきであることを教訓として得ることができます。

パウロは貧しさと豊かさにかかわらず喜べる秘訣を悟りました(ピリピ4:11-12「**乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満足することを学びました。12私は、貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足りることも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。**」)。

我々もその秘訣を学ばなければなりません。もちろん自然にできるわけではありません。これは学ばされるべきあって、訓練次第です。人の命も、人生も、世にあるすべての万物の主人であられ、すべてが神の御手にあると信じる人は、自分の欲張りの為や罪のためではなく、神の御心にかない、神の喜ばれることのために、必要なことを求め祈れば、必ず与えて下さることを体験された方は、今足りなくても自足し、安心して、喜んで日々生活が出来るようになります。家もなく、貯金したお金もなかったパウロが伝道の旅をしながら、ずっと神の満たしを体験して来たのではありませんか。

< 3.喜びの秘訣:キリストイエスにあって我々は喜べます。>

人生をみる見方には二つがあります。一つは環境や状況、人をとおして人生をみる見方です。しかし、これは決して健全な見方ではありません。そういうものはよく変わるからです。我々を囲んでいる状況の中でのみ自分の人生を見てしまうと、我々はもどかしさを感じるしかありません。‘こんなにみじめに生きるべきなのか?’という息苦しさがあります。

しかし、キリスト・イエスにあって人生を見る時は違います。二つ目の見方はイエスキリストにあって自分の人生を見ることです。パウロが彼の手紙でよく使った表現がありますが、それは“**キリスト・イエスにあって**”です。パウロがよくこれを繰り返した理由は、**彼自身がキリスト・イエスにあって新しく変わった者になったから**です。

イエスキリストと出会う前は、キリスト者たちをだれよりも熱心に非難し、迫害する者でした。しかし、パウロはイエスキリストに出会ってから、罪人のありのままの自分を受け入れてくださったことを体験します。キリスト・イエスにあって彼は神様の愛を

見いだしました。キリスト・イエスにあって新しい人生、生き方を見つけます。キリスト・イエスにあって彼は人生の新しい生きる目的を見つけました。「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。(第二コリント5章17節)」

環境も状況も変わって行きます。我々の周りにいる人々も変わって行きます。しかし、このすべてのことが変わっても変わらないことがあります。それは“キリストイエスにあって”という状況です。イエス様にあって神の愛、神の救いは決して変わりありません！イエス様にあって自分に向う神の慈しみは変わりありません！ですから、良くなったり、悪くなったりよく変わるみなさんの環境、状況、人に左右される人生ではなく、これからずっとキリストイエスにあってキリストと共に歩む人生となり、感謝と喜びが伴うみなさんの人生となりますように切にお祈り申し上げます。(ローマ人への手紙8章35、37-39節)

使徒パウロがすべてを超越して喜べたのは彼が主にあっていたからです。使徒パウロがどんな状況や境遇になっても喜べたのは、実際いつも自分はキリストイエスにあっているという信仰があったからです。彼はピリピ人への手紙を牢屋で書きましたが、彼自身は牢屋ではなく主にあるのだと考え信じていました。場所の心理学があります。場所がある程度幸福をもたらしてくれるということです。もちろん場所を無視することはできません。人間である以上環境の影響を受けざるを得ません。しかし場所と環境を超えることのできる道があります。それはいつも主の中にとどまることです。
「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。(ピリピ4:4)」

置かれた厳しい環境だけではなく、パウロの体には肉体のとげがあつて彼をいつも刺していました。実際パウロの人生の環境は苦難の連続でした。しかし、彼がキリストにあるのみに自分の弱ささえほこりとなり、喜べたと告白しています。
「ですから私は、キリストのゆえに、弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいます。というのは、私が弱いときにこそ、私は(イエスキリストによって)強いからです。(第二コリント12:10)」使徒パウロはさらに主にあって大いに喜んでいます。
「私を案じてくれるあなたがたの心が、今ついによみがえってきたことを、私は主にあって大いに喜んでいます。(ピリピ4:10)」
パウロが経験した喜びは神様から与えられた喜びでした。神様から与えられる喜びはこの世のあらゆる喜びを越える喜びであり、感謝であります。神様が我々の心におかれた喜びはこの世の何ものとも比べられません。

ダビデも神様から与えられる喜びを経験した後、このように告白しています。「あなたは喜びをわたしの心にくださいます。それは彼らに穀物(こくもつ)と新しいぶどう酒が豊かにある時にもまさっています。(詩篇4:7)」
ダビデの喜びは神様の前に自分をおく時に味わえる喜びでした。「私はいつも、主を前にしています。主が私の右におられるので、私は揺るがされることがありません。9それゆえ、私の心は喜び、私の胸は喜びにあふれます。私の身も安らかに住まいます。(詩篇16:8-9)」彼はつづけて告白します。「あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。満ち足りた喜びがあなたの前にあり、楽しみがあなたの右にとこしえにあります。(詩篇16:11)」我々が喜びを回復し主の喜びを味わうためにはイエスにとどまらなければなりません。

イエスにとどまることは何でしょうか。我々が神様の御言葉を読み、黙想する時もそうですが、使徒パウロは特に祈る時主にとどまることを示しました。イエス様が我々に備えてくださった喜びの中の一つは祈りの答えへの喜びです。我々は祈りをとおしてイエス様が約束された喜びを経験します。祈って、こらえられた時、我々の喜びはさらに増し加えられます。
「今まで、あなたがたは、わたしの名によって何も求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ちあふれるようになるためです。(ヨハネ16:24)」

我々のもっている問題にたいして心配すればするほど、問題しか見えなくなります。しかし、我々の心配と問題を祈りに変えて、キリストに委ねて、任せながら御前におろせば、神様の答え、神の助けを頂けます。そうすることによって我々は神様を喜ぶこととなります。神様を喜ぶ時、すべての問題を克服し、さらに感謝し喜べる力をも同時に得られることを覚えましょう。
「さらに、彼は彼らに言った。「行って、ごちそうを食べ、あまいぶどう酒を飲みなさい。何も用意できなかった人には食べ物も贈りなさい。今日は、私たちの主にとって聖なる日である。悲しんではならない。主を喜ぶことは、あなたがたの力だからだ。」(ネヘミヤ記8:10)

愛する信仰の家族のみなさん！喜びは努力の産物の以前のいのちの実です。御霊の実の中での一つが喜びです。ですから我々は御霊に頼らなければなりません。イエス様は御霊によって喜ばれました。「ちょうどこのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ、あなたをほめたたえます。(ルカ10章21節)」イエス様が聖霊によって喜ばれたならば我々も聖霊によって喜べます。今日も神は我々に“嬉しい時だけ喜ぶあなたよ。いつも主にあってよろこびなさい。”と命じて下さっています！嬉しくて、満足の時だけに喜ぶ者ではなく、いつもキリストにあって喜びつつ、感謝しているからさらに喜びと感謝が溢れ、幸いな人生を送る事が出来る秘訣を今日もう一度覚えておきましょう。みなさんの喜びを表す方法は人によってさまざまかも知れません。ある方は微笑みで、言葉で、文字で、平安な沈黙で、感情の表現で、歌で、プレゼントで、どんな姿でもかまいません。環境を超え、人間関係を超え、物質のあり、なしを越え、今日も、今週も、残りの今年も、我らの救い主キリストイエスによって、その方にあつて喜べる全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますように切にお祈り申し上げます。今日も愛するみなさん、ご家庭に聖霊の神による喜び、祈りを通して答えられる喜び、イエスにあっての喜びに益々溢れるまた一週間を迎える事が出来るようにイエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！